

大学生が考える在学中になすべき活動 —DEEP PEOPLE の企画から見えてきたもの—

牧迫雄也¹⁾、浦邊研太郎²⁾、野中 亮²⁾、小鳥正也²⁾、吉田 博³⁾

1) 徳島大学総合科学部 2) 徳島大学工学部 3) 徳島大学大学開放実践センター

1. はじめに

大学生が、在学中になすべきことといえば専門科目における知識・技能の習得が一番に挙げられる。これは、大学生にとって大学生活の中で中心になすべきことであり、高等教育機関にとっては教育課程を編成する上で最も重視されるべきことである。しかし、近年における社会の多様化に伴い社会が求める人材と大学が輩出する人材との間には、乖離が生じていることが指摘されている。岡部（2010）の研究によると、企業が採用時に求める能力として、「集団の中で自らの役割を果たし協力する力」や「自律性・主体的に取り組む力」といった分野横断的な能力が挙げられている¹⁾。このような現状から、文部科学省（2008）では、大学生が学士課程の専攻分野を通じて培う能力として「学士力」を提唱している²⁾。学士力には、専門科目における知識・理解の他に汎用的技能、態度・志向性、総合的な学習経験と創造的思考力が挙げられている。これらのことを考えると、大学生が大学在学中になすべきことは、広範多岐にわたっていることが見て取れる。何をなすべきかは、各自が考え行動する必要があるが、このようなことを考える機会を学生に提供することも教育課程において必要ではないだろうか。

2. 本発表の目的

徳島大学の学生による学生支援チーム繋ぎ create^{※1}では、活動の1つとして「真剣徳大しゃべり場（以下しゃべり場）」を企画・開催している。しゃべり場は、学生・教職員が大学の可能性について自由に意見を交わし、徳島大学での学び

について再認識することを目的としたグループトークの場である。毎回異なるテーマで議論が交わされ、回を重ねるごとに参加者も増え、大きな好評を得ている³⁾⁴⁾。しかし、しゃべり場の参加者からは、より深い議論を求める声がアンケート等で多く寄せられた。そこで、これらの声を受けて「徳大在学中に大切にすべきこと」という従来のしゃべり場より深いテーマについて議論を行う場として、「DEEP PEOPLE（以下本企画）」を2011年6月27日に開催した。本企画での議論を明らかにすることは、学生が自身のキャンパスライフを考える上で有益な資料となるであろう。さらに、学生支援及び、FDの取り組みを考えるうえでも有益な資料となるのではないだろうか。そこで、本発表は本企画での議論の様子を紹介するとともに、本企画が参加した学生、教員にどのような影響をもたらすことができたのか考察を行い、成果を明らかにする。

3. DEEP PEOPLE とは

本企画の目的は、「グループワークを通して、在学中に大学生がなすべきことを形にする」ことである。参加者は、5人前後で1つのグループを構成し、各グループにはコーディネーター（進行役）の学生を1人ずつ配置した。参加者は与えられたテーマに沿って、グループ内でイメージマップを作成しながら議論を進めていく。今回のテーマは、「徳大在学中に大切にすべきことは何か!？」であった。イメージマップの完成後、各グループの議論の内容を作成したイメージマップを用いて発表し、質疑応答を行うことで、全体での共有を図った。また、企画の終了後には飲み物とお菓子を用意し、参加者同士の親睦を深めるフリータイムキングの時間を設けた。

※1 繋ぎ create とは、大学生にとって新しく何かを始めるきっかけ作りを支援するために、出会い・交流の場を提供する学生チームである。

4. DEEP PEOPLE の様子

本企画には、学生 17 名、教員 5 名の 22 名（企画・見学者を含む）が参加した。参加者は言葉だけの議論とは違い、イメージマップを作成する過程で自らの発想と他人の発想を視覚的に繋げることができ、新たな意見の創出に役立っていた。参加者の中には、「DEEP PEOPLE」の名の通り始めから積極的な学生も多く、コーディネーターを中心に各グループともに白熱した議論が行われた。イメージマップの作成に関して、初めは慣れていない様子の学生もいたが、議論が進むにつれて、楽しみながら書き込んでいる様子が見受けられた。議論の内容は、「徳大在学中に大切にすべきこと」を見つけることであったが、その過程で「何をなすべきか」、「その理由は何か」、「得られるものは何か」など発展的な議論も行われた。中には、自分の実体験を話す学生がいたり、大学生活でどんなことに興味を持っているか、または何に熱中しているかを話す学生がいて、各グループともに大いに盛り上がっていた。発表・質疑応答のときには、参加者からの積極的な質問が多くなされ、ここでも白熱した議論が交わされた。また、フリートークでは、参加学生が教員に日頃の大学生活に関する質問、相談を行うなど、全体を通してとても密度の濃い時間であった（図 1）。



図 1 DEEP PEOPLE の様子

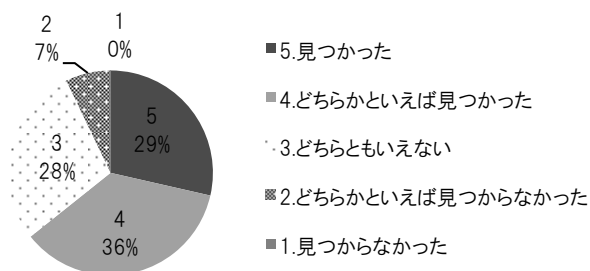


図 2 DEEP PEOPLE に参加して今後あなたが大学生活でなすべきことが見つかりましたか？

5. 結果と考察

本企画では参加者アンケートを実施し、参加者のうち企画・見学者を除く 15 名から回答を得た。アンケートでは「DEEP PEOPLE に参加して今後あなたが大学生活でなすべきことが見つかりましたか？」（5 件法）という設問に対して、6 割以上の参加者が、見つかった、またはどちらかといえれば見つかったと回答している（図 2）。このことから、本企画は概ね参加者が大学在学中になすべきことを見つけることに寄与できたといえるのではないだろうか。また、自由記述では、良かった点として「自分の抱えている問題の解決に少しなった」、「一度きりの人生をいかに生かすかを考えるきっかけになりそう」といった意見が挙げられていた。このことから、大学生としての目的の発見に繋がっていると考えられる。さらに「質疑応答で少し厳しい意見をもらって刺激になった。器が大きくなった気がした。」という意見もあり、発表・質疑応答が自分自身の意識の向上に強い影響を与えていることがわかる。一方で、今後改善すべき点として、参加者が少ないことや、グループワークの方法・時間の見直しなどが挙げられていた。本企画は、大学生に自身のキャンパスライフを充実させるための「きっかけづくり」として一石を投じていることは推察できる。しかし、これらの改善点を次回以降に修正し、さらに良い議論ができる場として実施していきたい。

参考文献・資料

- 1) 岡部悟志：企業が採用時の要件として大卒者に求める能力，大学教育学会誌，32，114-121，2010
- 2) 文部科学省：学士課程の構築に向けて，中央教育審議会答申，2008
- 3) 浦邊研太郎，光宗 榮，福島沙奈，吉田 博：学生による徳大生の正課外活動支援，平成 23 年度大学教育カンファレンス in 徳島発表抄録集，34-35，2011
- 4) 吉田 博，野中 亮，池内 将：学生による正課外活動，第 59 回中国・四国地区大学教育研究会プログラム集，8，2011